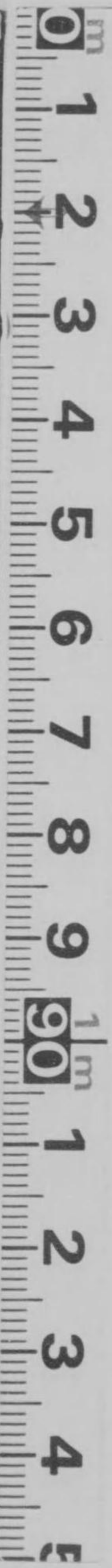


393

637

大正十五年十月

日本青年館事業



始



16  
636  
↓  
393  
637

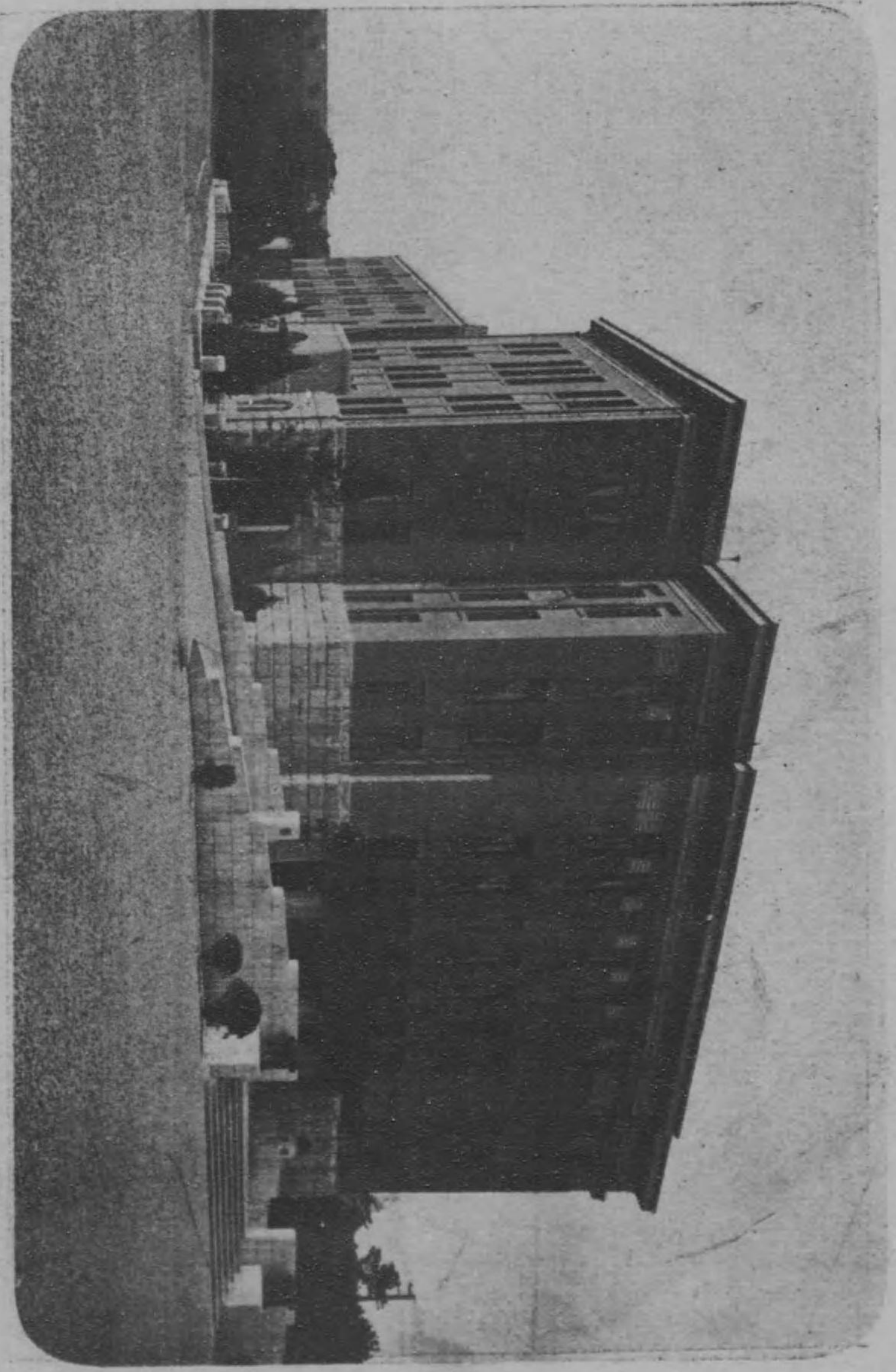


此の冊子は、大正十四年度に於て實施した事業の概要並に、他の主要事項の概要を、本館關係の各方面に報告するために編纂したものであります。  
尙詳細報告を要すべきものは、その都度雑誌「青年」を通じて發表いたして居ります。

大正十五年十月

財團法人  
日本青年館

大正  
15. 11. 27  
内交



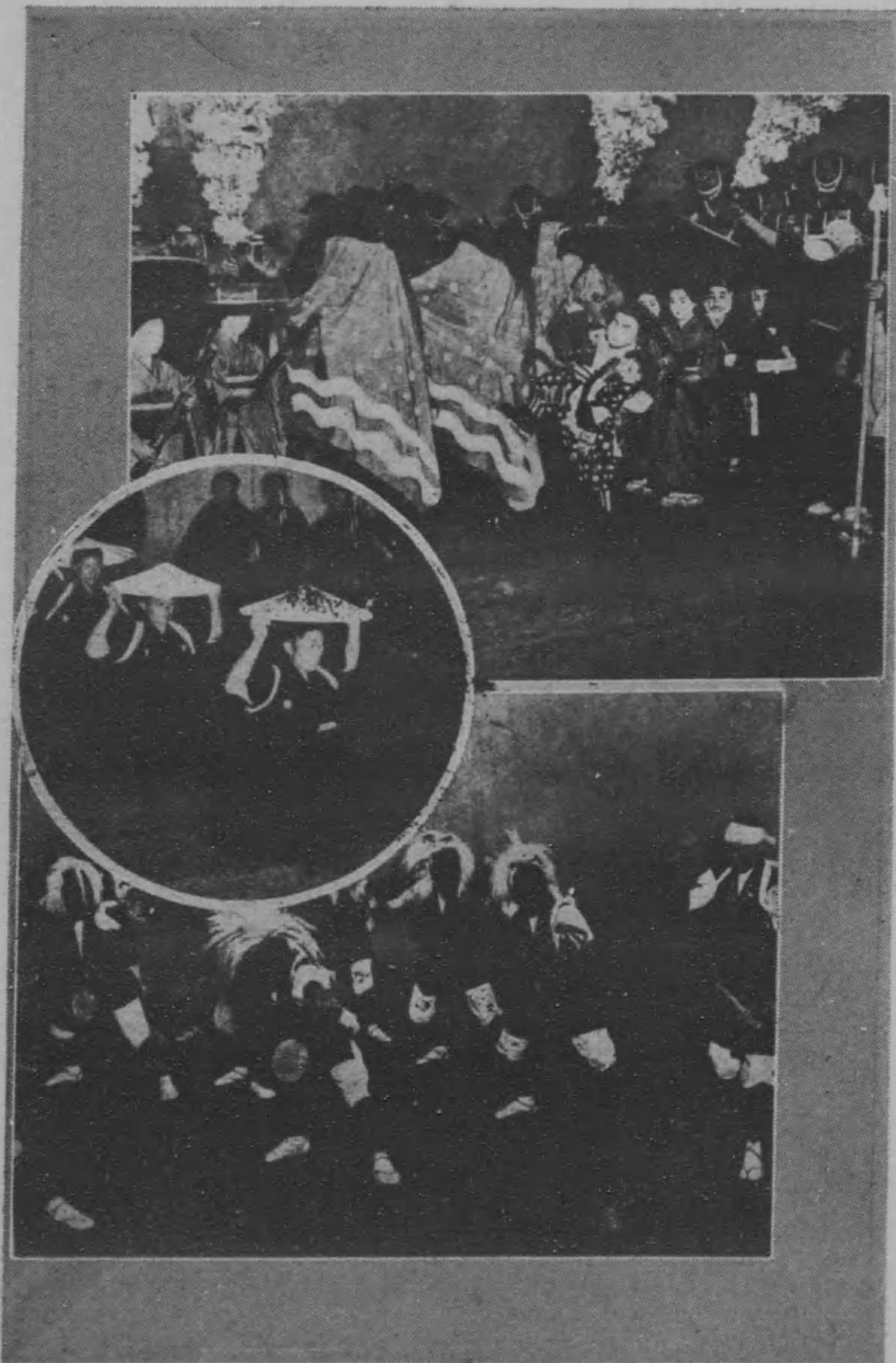
日本青年館全景



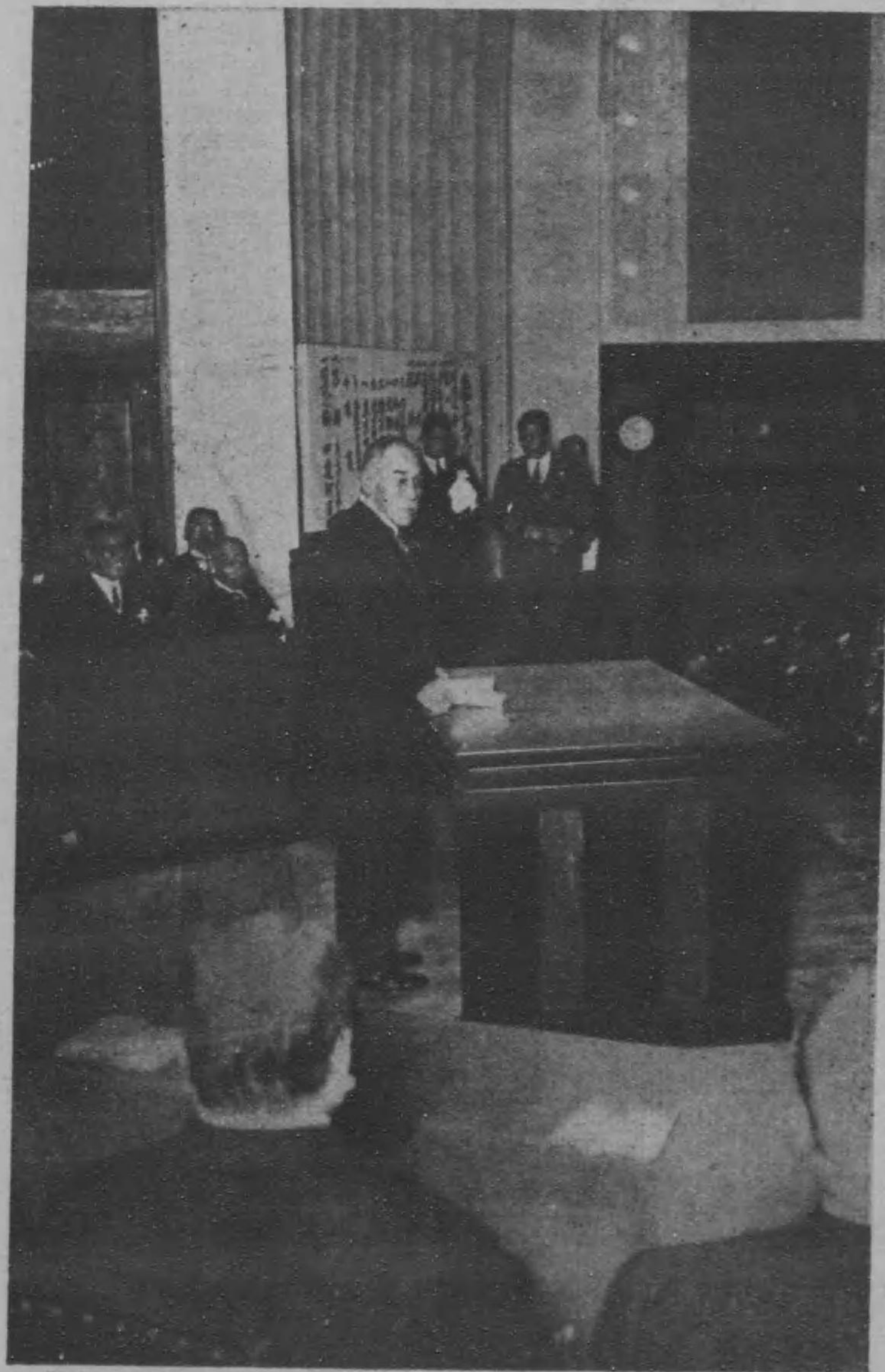
日本青年館

大正十一年五月十日  
 本館より送られたる  
 日本青年館の建築  
 費は、本館の収入  
 及び、各界の寄附  
 により、計五萬圓  
 餘に達したる事  
 業の盛んなるを  
 示すものである。



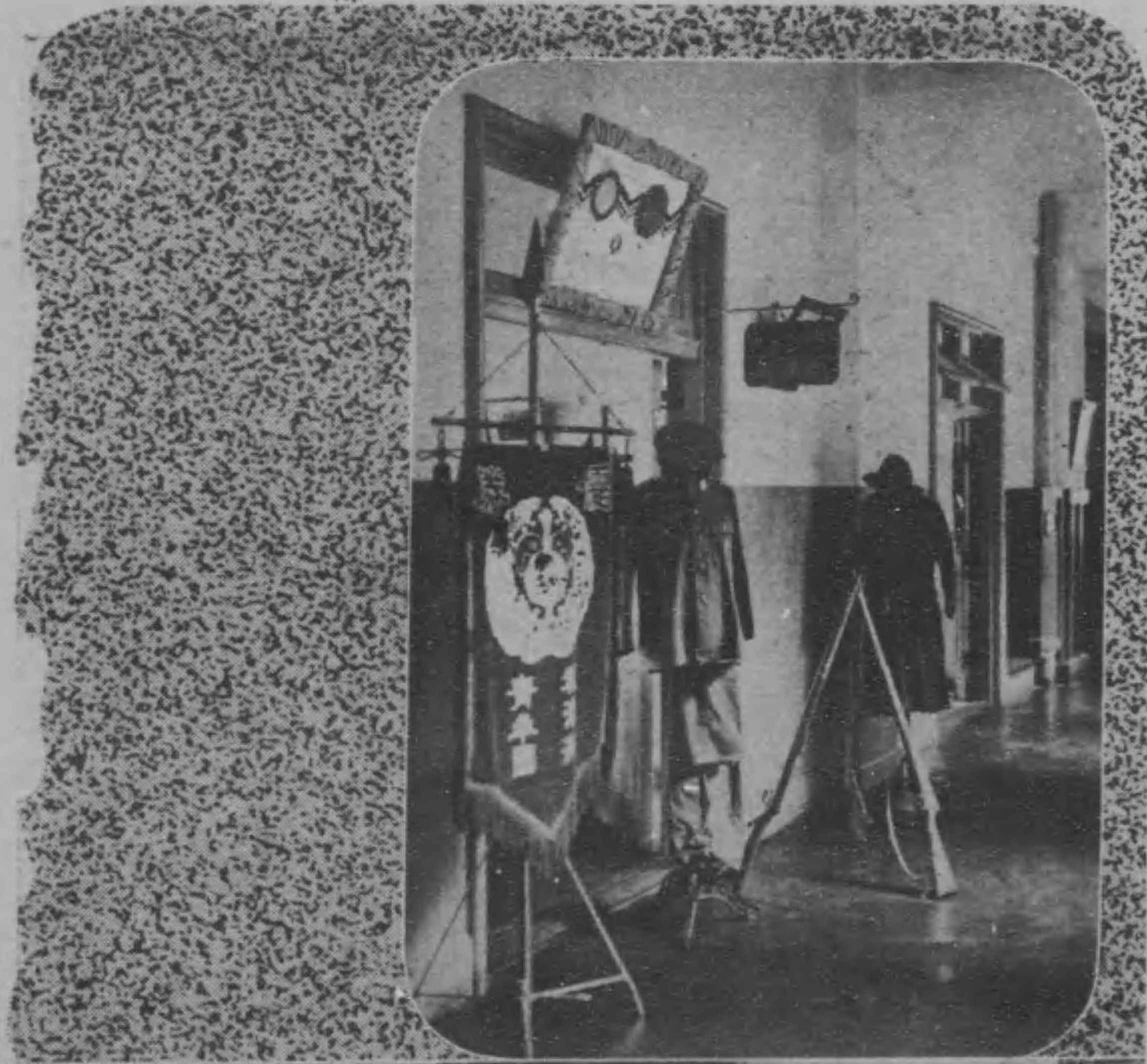


第一回郷土舞踊



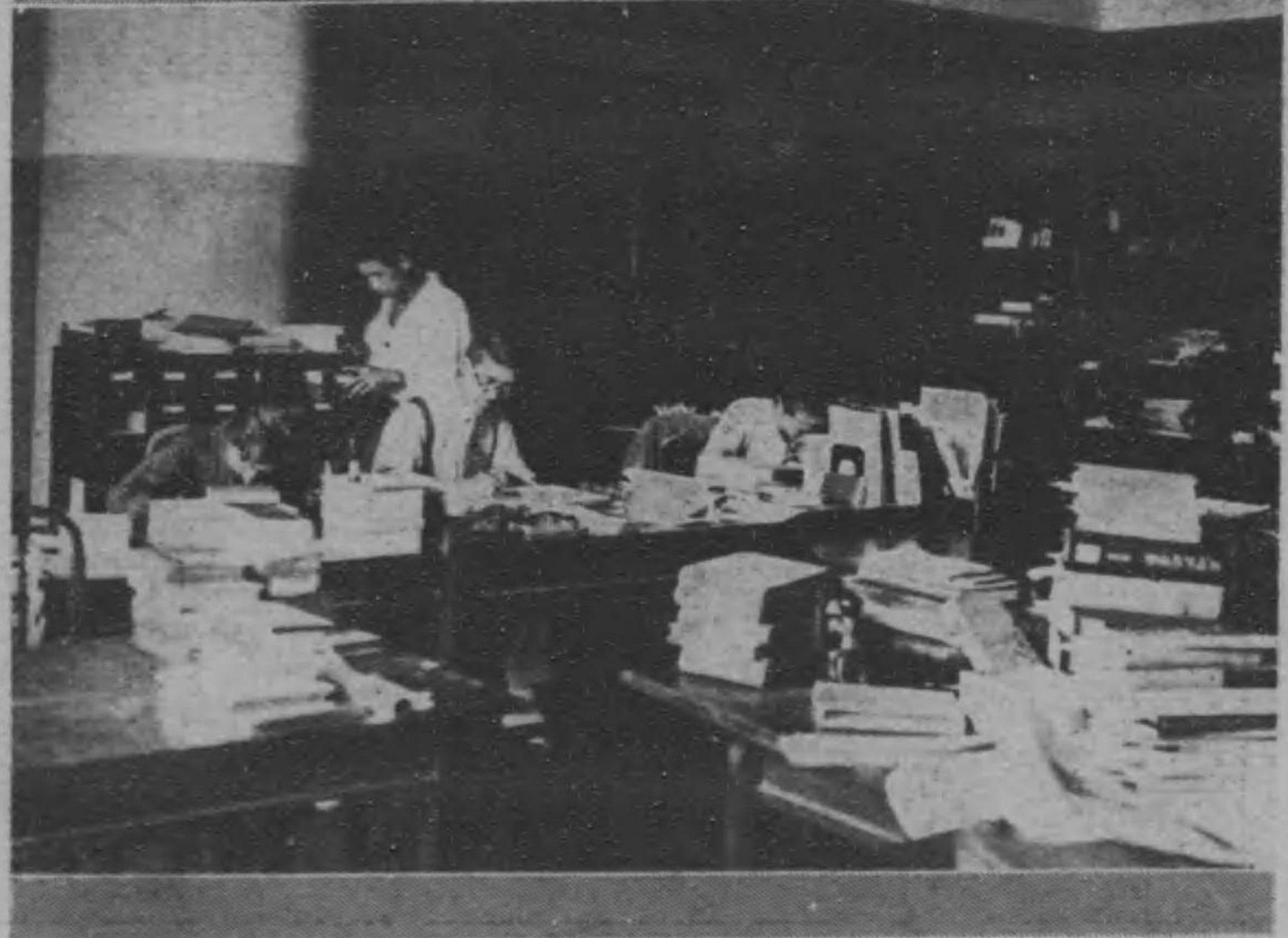
開式當時の加藤首相の演説

部 理 代



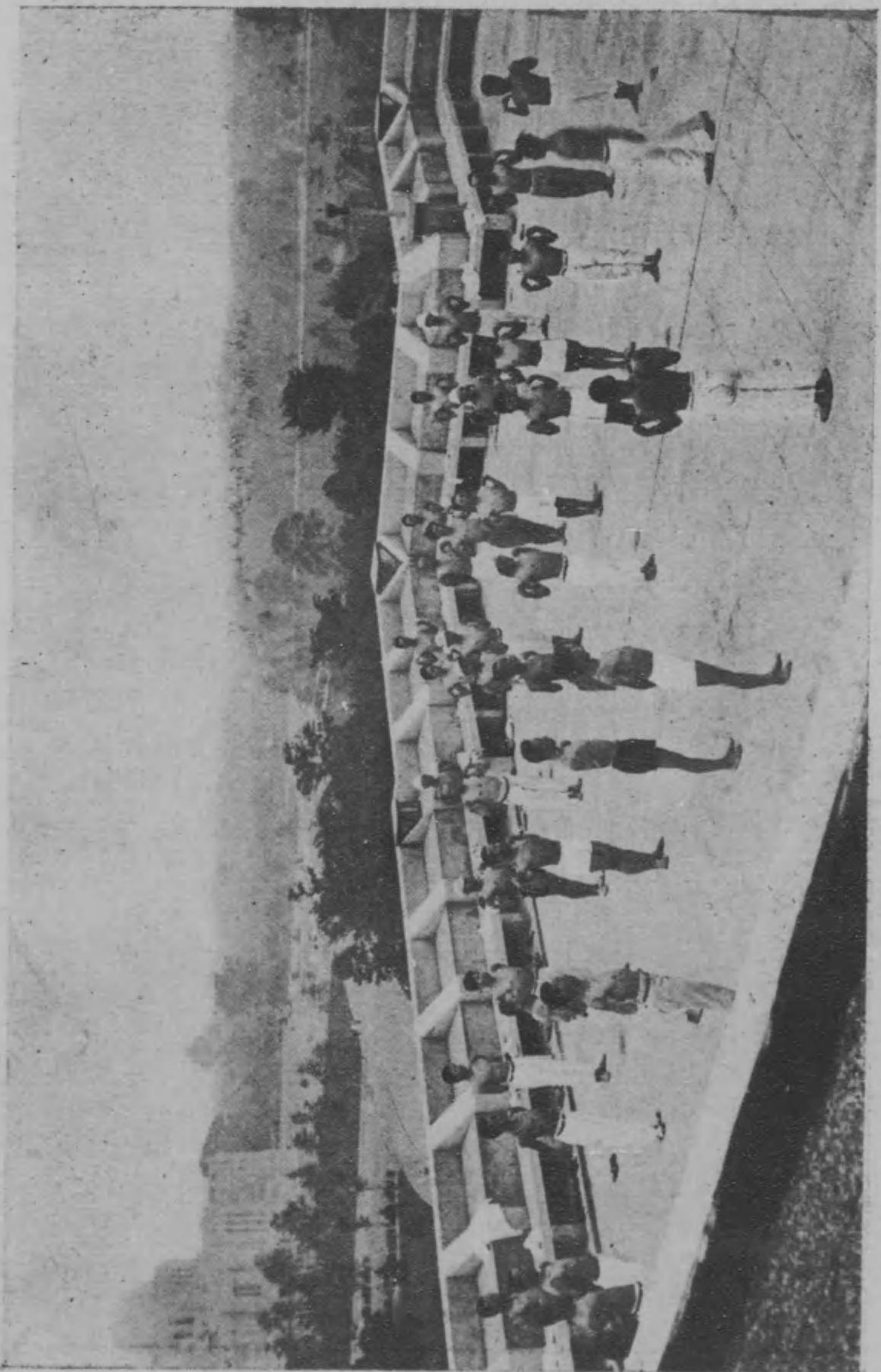
送 發 の 誌 雜

付 受 部 泊 宿



理 整 書 圖 の 館 書 圖 内 館

館屋上にて(指導者養成講習會の指)の體操



## 目次

講習講演狀況	一
調査狀況	一七
代理取次狀況	二三
宿泊會館狀況	二七
庶務狀況	五七
會計狀況	六七
大日本聯合青年團狀況	七九
日本青年館寄附行爲	八三
役員及職員名	八八

講習講演講師派遣概况

序	一
第一章 講習講演の目的	一
第二章 講習講演の計画	一
第三章 講習講演の進行	一
第四章 講習講演の成果	一
第五章 講習講演の反省	一
第六章 講習講演の将来	一
第七章 講習講演の結論	一
第八章 講習講演の附録	一
第九章 講習講演の参考文献	一
第十章 講習講演の謝辞	一
終	一

大正十四年度の事業は左表の通りであるが特筆しなければならないことは、開館最初の試であつた全  
國青年團指導者講習會である。本講習會は從來の講習會とは趣きを異にし相互研究をなさしむること  
に重きを置き各講師指導の下に講習員提出の調査研究事項を討議せしめ相當の効果を收めたことであ



全國青年團指導者講習會

會 期 大正十五年二月十九日ヨリ二十八日迄十日間

講習員 百十二名

講習課目

一、政治教育方面

(ロ) 普通選舉法の概要

二、農村社會の諸方面

(イ) 農村問題の意義及農村教育

(ロ) 農民美術

三、青少年指導方面



- (イ) 青年團發達の沿革と青年團運動の大勢
- (ロ) 青年團と少年團訓練
- (ハ) 青年文庫の經營
- (ニ) 青年團の娛樂施設
- (ホ) 青年團の體育指導
- (ヘ) 農村青年團の指導

四、特別講話

- (イ) 青年と教育運動
- (ロ) 社會問題批判
- (ハ) 人生問題
- (ニ) 殖民地事情
- (ホ) 新聞の使命

見學場所

- (イ) 新宿御苑
- (ロ) 貴衆兩院
- (ハ) 東京放送局
- (ニ) 東京日日及報知新聞社
- (ホ) 所澤陸軍飛行學校

本館主催青年講座開催概要 (大正十四年度)

開催年月日	名 稱	協 賛	會 場	派 遣 講 師	参加人員	摘 要
大正十四年 自七月二十一日 至七月二十六日	日本青年館 主催 徳島縣青年講座	徳島縣青年 團聯合會 名東郡青年 團聯合會 徳島市青年 團聯合會	徳島縣師範學校	帝國圖書館長 松本喜一氏 日本青年館主事 後藤隆之助氏 日本青年館囑託 渡邊庸一郎氏 社會教育主事 澤田喜市氏	一一五	
自八月三日 至八月八日	日本青年館 主催 佐賀縣青年講座	佐賀縣	長崎縣大村師範學校	廣島高等師範學校長 吉田賢龍氏 九州帝國大學助手 和田富子氏 日本青年館副主事 熊谷辰治郎氏	八七	

自八月二十日 至八月二十五日	日本青年館 新潟富山兩 縣青年講座	富山縣	新潟縣 高田市尋常高等 小學校	相馬御風氏 馬場恒吾氏 日本青年館主事 後藤隆之助氏 新潟醫科大學長 澤田敬藏氏 新潟高等學校長 八田三喜氏 體育主事 田中收二氏	四〇	六
自十一月二十日 至十一月二十五日	日本青年館 高知縣青年 團共同主催 高知縣第四 回青年團講 習會	高知市外五臺山 村竹林寺	文部省督學官 小出滿二氏 社會教育主事 野田松平氏 日本青年館主事 後藤隆之助氏	一二〇		

講師派遣 (大正十四年度)

開催年月日	會名	派遣講師名	摘要
一四・四・一〇	栃木縣宇都宮市講演會	丸山鶴吉	
四・一五	東京府南多摩郡稻城村講演會	熊谷辰治郎	
四・一九	福島縣平町講演會	二荒芳德	
四・二五	岩手縣一戸町講演會	田子一民	
五・三一	東京府北多摩郡三鷹村講演會	熊谷辰治助郎	
五・五	東京府西多摩郡青梅町講演會	長瀬鳳輔	
五・八	栃木縣上都賀郡栗野村講演會	後藤隆之助	

〃	五・二七	秋田縣仙北郡田澤村講演會	田	子	一	民	
〃	七・二八	靜岡縣青年團講演會	丸	山	鶴	吉	縣青年團長會議
〃	七・二九	兵庫縣青年團講演會	丸	山	鶴	吉	縣青年團長會議
〃	八・一	千葉縣夷隅郡大多喜町講演會	高	橋	刀	畔	
〃	八・一〇	熊本縣聯合青年團講演會	熊	谷	辰	治	郎
〃	八・二四	靜岡縣富士郡上野村講演會	丸	山	鶴	吉	
〃	八・三九	千葉縣君津郡周西村講習會	熊	谷	辰	治	郎
〃	八・二九	岩手縣盛岡市講演會	丸	山	鶴	吉	
〃	九・二五	愛知縣名古屋市青年團長會議	丸	山	鶴	吉	

〃	一〇・一三	北海道青年指導者講習會	長	瀬	鳳	輔	
〃	一一・一〇	茨城縣稻敷郡岡田村講演會	小	笠	原	幹	男
〃	一一・一三	神奈川縣聯合青年團總會	北	吟	吉		
〃	一二・一四	鳥取縣青年幹部講習會	松	本	喜	一	
一五・一・七	東京府北多摩郡中神村講演會	小	笠	原	幹	男	
〃	一・一六	東京府在原郡調布村講演會	後	藤	隆	之	助
〃	一・二〇	山梨縣東八代郡御代咲村、南八代村、上曾根村講演會	高	橋	刀	畔	
〃	一・二〇	東京府北多摩郡小金井村講演會	小	笠	原	幹	男
〃	二・一	東京府北多摩郡東村山村講演會	熊	谷	辰	治	郎

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
三・二一	三・二一	三・七	三・四	三・三	二・一二	二・九	二・一〇	二・六
神奈川縣愛甲郡厚木町講演會	東京府南多摩郡堺村講演會	埼玉縣入間郡吾妻村講演會	東京府北多摩郡小平村講演會	三重縣志摩郡鵜方村講習會	埼玉縣南埼玉郡越ヶ谷町講演會	埼玉縣南埼玉郡若槻町講演會	東京府北多摩郡府中町講演會	埼玉縣南埼玉郡久喜町講演會
丸山鶴吉	多羅尾光道	渡邊庸一郎	小笠原幹男	高橋刀畔	小笠原幹男	小笠原幹男	熊谷辰治郎	熊谷辰治郎

青年團幹部養成講習會概要

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
三・二九	三・二二	三・二一	三・二九	三・二二	三・二一	三・二九	三・二二	三・二一
山梨縣中巨摩郡百田村講演會	栃木縣下都賀郡栃木町郡青年團講演會	東京府南多摩郡小河内村、氷川村、古里村聯合講演會	山梨縣中巨摩郡百田村講演會	栃木縣下都賀郡栃木町郡青年團講演會	東京府南多摩郡小河内村、氷川村、古里村聯合講演會	山梨縣中巨摩郡百田村講演會	栃木縣下都賀郡栃木町郡青年團講演會	東京府南多摩郡小河内村、氷川村、古里村聯合講演會
多羅尾光道	多羅尾光道	渡邊庸一郎	多羅尾光道	多羅尾光道	渡邊庸一郎	多羅尾光道	多羅尾光道	渡邊庸一郎
郡中部青年團總會	團長會議		郡中部青年團總會	團長會議		郡中部青年團總會	團長會議	

佐賀縣	山口縣	奈良縣	鳥取縣	開催地
日本青年館	山回青年講習所	同	日本青年館	主催者
ナシ	ナシ	奈良縣磯城郡多武峯村	氣高郡青年會	協賛者
佐賀郡川上村	山龍福寺町	磯城郡多武峯村	氣高郡寶木村	會場
同	同	同	大正十四年七月五日	開催年月
四年九月四日	五年九月五日	五年八月三日	五年七月五日	期間
五	四〇	五六	三〇名	會員數

期日	期間	主催者名	會	場	講師	講習員數	種目
東京府	巡回青年講習所	日本青年館	日本青年館	同	年十月	四日	三六
三重縣	巡回青年講習所	三重縣	一身田町 專修寺	同	年十一月	五日	四〇
京都府	竹野郡聯合青年團 巡回青年講習所	竹野郡網野町 本覺寺	同	同	年十二月	四日	五六
宮崎縣	宮崎縣青年聯合團 巡回青年講習所	宮崎市 宮崎中學校	同	同	年十二月	五日	四九
神奈川縣	神奈川青年講習所 巡回青年講習所	鶴見町 持寺	同	大正十五年	一月	四日	九四
岡山縣	岡山青年講習所 巡回青年講習所	岡山市 清寺	同	同	年一月	五日	九二
大分縣	大分青年講習所 巡回青年講習所	別府市 富士紡俱樂部	同	同	年二月	五日	五六

運動競技指導者派遣幹旋

自八月七日	至八月七日	鹿兒島縣聯合青年團	鹿兒島縣立商船水產學校	出口林次郎	七〇	陸上競技
自八月十五日	至八月十九日	岐阜縣聯合青年團	岐阜縣立師範學校	出口林次郎	一二〇	同
自八月二十日	至八月二十四日	青森縣聯合青年團	青森縣社會教育講演場	坂入寅四郎	三三	同
自八月二十六日	至八月三十一日	山形縣聯合青年團	東置賜郡赤湯小學校 北村山郡大石田小學校 東田川郡渡前小學校	坂入寅四郎	三〇〇	同
自八月二十五日	至八月二十九日	神奈川縣聯合青年團	大磯小學校	出口林次郎	三九	同
自九月三日	至九月五日	奈良縣聯合青年團	奈良公會堂 奈良公園グラウンド	出口林次郎	七四	同
自九月四日	至九月六日	三重縣聯合青年團	三重縣師範學校	二村忠臣	五〇	同
自九月十一日	至九月十六日	沖繩縣青年團	那覇市	出口林次郎	一一三	同
自九月二十一日	至九月二十三日	福岡縣	福岡市外春日原運動場	出口林次郎	一〇〇	同

自九月十八日 至九月十九日 二日間	新潟縣青年團	縣下彌彦神社内	高橋 數良	柔道審判ノ タメ
九月二十七日	滋賀縣青年團		東京 大角力協會行司	相撲行司ノ タメ
十一月十四日	長野縣北佐久郡教員 研究會	岩村田小學校	二村 忠臣	二〇〇 陸上競技
十二月四、五、六、三 日間	高知縣青年團		二村 忠臣	五〇 同

### 第二回明治神宮競技大會

第二回明治神宮競技大會に於ては競技の種類は第一回の時よりも新に柔道を加へ競技方法は凡て採點に依つて個人優勝者と同時に優勝團體を決定し府縣を單位とした對抗競技の形式になつた。その成績の結果優勝旗は相撲劍道の二本は東京府青年團聯合會に柔道は熊本縣聯合青年團に陸上競技は北海道聯合青年團に授與せられた。

日程 十月二十九日 劍道柔道相撲選士及監督宣誓並ニ打合會  
十月三十日 相撲競技開始

陸上競技選士及監督宣誓並ニ打合會

十月三十一日 陸上競技選士入場式競技開始

劍道柔道仕合開始

十一月一日 柔道仕合決勝及陸上競技繼續

十一月二日 陸上競技決勝

### 第一回郷土舞踊及民謡大會

開館式の一つの催として郷土舞踊及民謡の大會を催した。全国各地に埋れてゐる郷土的色彩の最も濃厚な、しかも藝術味のある、そして、永く保存して地方農村の娯樂として、益々普及發達せしむるに足るやうなものを選定して、本館に於て廣く天下に紹介することにし、各府縣からその報告を募つた、その多數の應募の舞踊及民謡の中から、柳田國男氏、高野辰之氏、小寺融吉氏の嚴選にて佐賀縣の面浮立、富山縣の麥屋踊、新潟縣の越後追分、東京の木遣り唄、岩手縣の牛追ひ唄山唄、埼玉縣川越の獅子舞ひ、京都府の宇治の茶摘み唄、滋賀縣の江州音頭等を採用した。

前後數回に亘つて演じたが豫期以上の好評を博して、會を閉じた。

調査報告書として提出した調査結果は、その内容を要約して、合を附して、

調査報告書として提出した調査結果は、その内容を要約して、合を附して、

調査報告書として提出した調査結果は、その内容を要約して、合を附して、

調査報告書として提出した調査結果は、その内容を要約して、合を附して、

調査報告書として提出した調査結果は、その内容を要約して、合を附して、

調査報告書として提出した調査結果は、その内容を要約して、合を附して、

調査報告書として提出した調査結果は、その内容を要約して、合を附して、

### 在 一 回 派 士 義 報 又 列 議 大 會

調査報告書として提出した調査結果は、その内容を要約して、合を附して、

調査報告書として提出した調査結果は、その内容を要約して、合を附して、

調査報告書として提出した調査結果は、その内容を要約して、合を附して、

十月三十一日 朝日新聞社に入社者調査報告

朝日新聞社に入社者調査報告書一冊合

## 調 査 概 況

青年館に於て調査したる事どもを項目的に列擧すれば

一、日本青年團發達年表

日本の青年團は如何なる経路を経て發達して來たかといふ事を遠く若連中の時代から現代までの重なることどもを年代的に調査した。

二、青年思想傾向調査

全國の青年團員並に青年團幹部の思想傾向を知るために全國二十餘府縣に亘り調査した。

三、青年團娛樂施設

青年團の娛樂として如何なるものが施設せられてゐるかを十數縣下の市町村青年團體に就て調査した。

四、青年體育調査

青年に適する體育並に青年團の體育施設等

五、農村調査



山形縣下の某農村の經濟狀態その他農村の各事情に亘り詳細調査

六、各地方の民衆娛樂の實際調査

七、道府縣聯合青年團設立年月豫算其他調査

八、郡市聯合青年團豫算並に設立年月其他調査

九、青年團名簿

一〇、選獎青年團一覽表

一一、内外青年團並に青年運動の研究調査

一二、青年團研究に必要な内外諸資料の蒐集

以上調査の結果はその都度印刷或はプリントにして關係各方面に頒布して參考に供すると共に、隔月一回本館關係の各方面に對して調査資料を頒布してゐる。

### 全國青少年資料展覽會

開館式の際全國青年團の發達を計るために、青年團發達に關する參考資料を、全國各地の青年團より募集すると同時に、内務陸軍文部の各省、内閣統計局、各府縣、其他の諸官廳並に社會教化團體等より適當なる資料の出品方を依頼して本館の調査資料とともに陳列公開して多大の好評を博し、その一部は大日本聯合青年團の機關誌團報に公表した。

（一） 代理店としての業務の概要  
（二） 代理店としての業務の概要  
（三） 代理店としての業務の概要  
（四） 代理店としての業務の概要  
（五） 代理店としての業務の概要  
（六） 代理店としての業務の概要  
（七） 代理店としての業務の概要  
（八） 代理店としての業務の概要  
（九） 代理店としての業務の概要  
（十） 代理店としての業務の概要

### 代理取次概況

（一） 代理店としての業務の概要  
（二） 代理店としての業務の概要  
（三） 代理店としての業務の概要  
（四） 代理店としての業務の概要  
（五） 代理店としての業務の概要  
（六） 代理店としての業務の概要  
（七） 代理店としての業務の概要  
（八） 代理店としての業務の概要  
（九） 代理店としての業務の概要  
（十） 代理店としての業務の概要

「青年」刊行の状況

本館機關雜誌「青年」は從來百四十頁内外のもので、その販賣策として、東京市内數軒の大取次店を通じて全國各書店に於て販賣する方法をとつた。隨てその内容體裁も單に地方の青年團員や幹部のみ目標とすることは出来なかつた。然し此の方法は「青年」の如き性質の雜誌を經營するには不適當であることを認めて、

第一に販賣方法を改良して一切書店の店頭に出さず直接購讀者のみに頒つこと

第二定價を出来るだけ安くすること

第三内容を出来るだけ地方の青年團員並に幹部に適するものとする事

の三つの主眼を定めて昨大正十四年十一月號より斷然改造して先づ定價を一ヶ年(十二冊)一圓と定め、内容を地方の青年團員並に幹部に適するものに改め、而して全國一萬七千の青年團體に對しては無料にて之が配布をなすと同時に青年團員の直接購讀者の勧誘を試みたところ、その成績良好、今後一層努力すれば、多年缺損續きの「青年」をして獨立經營せしめ得るに至るであらうと信ずる。

## 圖書の刊行狀況

出版界未曾有の不景氣の際として、出来るだけ新刊を手控へて今まで刊行したものを多數販賣するの消極策をとつた。新刊ものとしての重なるものは山本瀧之助著「幹部の修養」定價一圓十錢、本館編輯「青年愛誦集」定價二十錢、高見澤忠雄著「オリンピック競技の組織的研究」フキールド篇「定價三圓三十錢、其他數種のパンフレット、再版したものとしては矢野一郎著「北歐でんまゝく物語」定價一圓二十錢、廣畑庄太郎著「幹部の要領」定價五十錢、姉崎正治博士著「人生三方面」定價二十五錢、山崎延吉著「農村文化の建設と農村忌避」定價二十錢、末廣重雄博士著「我國現狀と青年」定價二十五錢、相馬御風著「如何に楽しむべきか」定價三十錢、「青年團員手牒」小出滿二著「農村問題」定價二十五錢、再版計畫中のものに高見澤忠雄著「オリンピック競技の組織的研究」トラック篇「定價二圓八十錢等がある。

## 代理取次の狀況

代理取次も不景氣の打撃を受けて成績良好なりとは云ひ得ざるも、宿泊部の開設以來漸次その成績の向上しつゝあるは事實で、將來益々發展の兆顯著である。目下需要の最も多きは團旗、團服、メダール等である。

## 會館部狀況

開館以來豫想外の盛況を呈しつゝあることは、毎月發行の「青年」誌上に於て詳しく報告發表してゐますが、今十四年度事業經過報告をするに當りまして、該年度末日迄に於ける統計を記して御参考に供し度いと思ひます。即ち昨年十月九日開館當日より本年三月三十一日迄に於ける、宿泊總人員は二萬三千二百四十三名と云ふ多數に上り、之を一日平均實に百三十三人餘と云ふ好況を極めてゐます。尙之を金額に直して見ますと、合計一萬一千二百六十九圓三十錢となります。此内青年團員の宿泊者が一萬九千五十一人其他在郷軍人、學生團體及公共團體等の宿泊者が一萬二千二百九十二人と云ふ内譯になります。之も段々日を経るに従つて宿泊數を増しつゝあることは、非常に喜ばしいことと思ひます。然し未だ一般に本館の存立やかうした便宜を圖つてゐると云ふことを御存知ない向が多々ある様に思はれます。殊に學生諸氏の如き、常に修學旅行をされるにも不拘、御存知ない爲め非常の不便を忍んで個人宿へ泊られる向も尠くないことと考へますが、將來大いに御利用なさる様御勧めし度いと思ひます。尙右内譯を示すと次の通りです。

### 大五十二年裏部所人員誌

# 大正十三年度宿泊人員調

(但十月九日開館以來)

月日	區別		計	主ナル宿泊團體
	日本室	寢臺室		
十月九日	二	一	三	
同 十日	二	一	三	
同 十一日	三	一	四	
同 十二日	一	一	二	熊本縣蠶業學校生徒
同 十三日	一	一	二	
同 十四日	一	一	二	明石女子師範學校生徒
同 十五日	一	一	二	

同 十六日	二	一	三	
同 十七日	六	四	一〇	東京府幹部青年講習會員 千葉埼玉青年團員
同 十八日	九	三	一二	東京府青年團員
司 十九日	六	一	七	同上
同 二十日	二	一	三	愛國青年講習會員
同 二十一日	二	一	三	同上
同 二十二日	二	一	三	同上
同 二十三日	六	一	七	同上
同 二十四日	七	一	八	

同	同	同	同	同	同	同	同	同
十日	九日	八日	七日	六日	五日	四日	三日	二日
九四	九	六	五	二九	四〇	六三	一七九	四二二
二四八	九六	一〇四	七六	四八	一〇五	四	三	三
一	五	一	一	一	一	一	一	一
六	一	一	一	一	一	一	一	一
三四八	二二	二二	八二	七	一四五	一〇七	一八	四一五
京都府青年、愛媛女師生、高知三島女生	同上	静岡中泉農學校	茨城縣麻生小學校	大阪西野田職工學校	愛知縣西尾蠶絲學校	和歌山縣日高農學校	同上	同上

十一月一日	計	同 三十一日	同 三十日	同 二十九日	同 二十八日	同 二十七日	同 二十六日	同 二十五日
五九	二、五八三	六三	六三七	六四七	一七	一	一	一
三	三〇二	三	三	一	一	一	一	一
一	三四	一	一	一	一	一	一	一
一	四	一	一	一	一	一	一	一
五八二	二、九三二	六六	六四〇	六四七	一七	一	一	一
各縣選士		同上	同上	各縣選士		同上	同上	青年代表招待者

同	同	同	同	同	同	同	同	同
二十八日	二十七日	二十六日	二十五日	二十四日	二十三日	二十二日	二十一日	二十日
三	一	一	一六	一	五	四二	六	四三
一四二	一二三	四	四	一四	一三	六二	一〇	六二
一	三	一	一	一	六	六	三	三
三	一	一	一	一	二	一	四	四
一四六	一二五	六	一〇	一五	一六	一九	四三	一一一
同	救世軍總會出席者					埼玉縣青年團員、茨城縣農會員		
上								

同	同	同	同	同	同	同	同	同
十九日	十八日	十七日	十六日	十五日	十四日	十三日	十二日	十一日
二四六	二四四	三三	四〇	七七	五〇	九二	五七	八
一七	一七	三	一	九四	六	八	一二五	一八三
四	三	六	六	一〇	二	一六	一	二
三	一	一	一	一	一	五	一	二
二七〇	二六五	四四	四六	一八二	六七	一三	一八	二六九
同	茨城縣青年團員	同	山梨青年團員	三重夕張高女生、青森女子商業校生	京都府青年團	京都、千葉青年團、更科補習校生	京都府青年團、高知高女生	同
上		上						上



同	同	同	同	同	十二月一日	計	同	同
六日	五日	四日	三日	二日	一月一日		三十日	二十九日
一三	一	一四	四	七三	七三	二、四七三	一四	四
四三九	三四七	七二	九八	一四三	一〇五	一、八四〇	一〇七	一〇九
一	七	一	四	六	一〇	八四	一	一
三	七	八	七	七	五	四一	三	三
四三三	三六一	九三	一五三	三三九	一九二	四、四三八	一四	一六
同	大日本農會出席者	岡山產業視察團	同	茨城小學校、岡山產業視察團、名古屋工藝學校	八王子青年團、全國救世軍		同	同
上		上					上	上

同	同	同	同	同	同	同	同	同
十五日	十四日	十三日	十二日	十一日	十日	九日	八日	七日
一	一五	九	四	二	一	一三	一〇	二〇
五	一九	七四	七七	九	一三	二六	一一	三九四
一	一	二	二	一	一	一	一	一
一	一	六	一	一	一	一	一	一〇
一六	一六	九二	八三	一三	一六	四二	一三	四四
茨城縣舟島村青年團其他	群馬縣勢多郡視察團 埼玉縣北葛飾郡下川青年團	同 上	茨城縣行方、鹿島兩郡視察團、其他			茨城縣舟島村青年團	同 上	靜岡縣富士郡青年團

一月一日	計	同 三十一日	同 三十日	同 二十九日	同 二十八日	同 二十七日	同 二十六日	同 二十五日
一	四二八	一	一〇	八	三	八	三	七
一四三	三、〇五九	一三九	一四五	一八〇	一四〇	一三三	一六	五九
一	六〇	一	一	二	三	三	三	二
五	九九	二	三	一	三	三	三	七
一五〇	三、六三六	一四三	一五九	一九一	一五八	一七	一四	九五
水戸、松山、第二、第六、廣島、第七、第八各、高等學校生徒、北大蹴球部		同上	同上	廣島、松山、山口、鹿兒島、水戸各高等學校其他	同上	神戶高商、松江高校、水戸高校、第二高校、松本高校、第八高校、新潟高校	同上	北大蹴球部、新潟高校蹴球部

同 二十四日	同 二十三日	同 二十二日	同 二十一日	同 二十日	同 十九日	同 十八日	同 十七日	同 十六日
二	七	三	三	二	一	一	一	一
四	二〇	一九	二五	八	二	一	三	八
一	一	一	二	一	一	一	一	二
一	二	一	三	三	四	一	二	二
五	三〇	三	三	一三	八	三	七	八
新潟高校蹴球部	北大蹴球部	千葉縣印旛郡青年團、北大蹴球部生	茨城縣豐加美郡青年團、北大蹴球部					千葉縣千葉郡處女會

同	同	同	同	同	同	同	同	同
十九日	十八日	十七日	十六日	十五日	十四日	十三日	十二日	十一日
四	六	六	二	二七	五二	三〇	三三	一〇
二七三	二四八	三九	三	一	三	三	一	三
一	二	一	一	一	一	一	一	四
三	二	四	一	一	一	一	一	二
三二	二六〇	五〇	四	二七	四	三	三	一九
革新俱樂部員、大每處女會	大每見學團(處女會員)	同上	大日本卓球協會會員	同上	埼玉縣青年團員、日本青年修養會			

同	同	同	同	同	同	同	同	同
十日	九日	八日	七日	六日	五日	四日	三日	二日
四	四	三	三六	六	三	七	二	三
四	七八	四六	一三	六	三	五	五九	二四
三	二	五	一	二	二	二	四	一
四	一	一	一	一	二	二	二	五
六五	七五	三	一五	一四	六七	六	八	二四
東京府青年團講習會、其他	近衛野砲兵入營者及附添人	千葉縣君津郡青年、靜岡縣青年、栃木縣今市役場員	高崎市在郷軍人、千葉縣、茨城縣青年團員	同上	同上	淺草區猿若青年團員、廣島、水戸高校生	京都府青年團員、水戸、其他高校生	埼玉縣北埼玉郡青年團員

同	同	同	同	同	同	同	同	同
二十日	二十一日	二十二日	二十三日	二十四日	二十五日	二十六日	二十七日	二十八日
二	一八	三	一	六	五	五	四	九
三	三	三	二	一	二	八	八	五
一	一	一	一	一	三	三	三	一
一	二	六	六	一	一	一	一	二
七	三	三	三	三	二	一	一	一
盛岡高農校生徒、革新俱樂部青年、茨城縣青年團員	釋迦無尼會青年、南足立青年團員、盛岡農林校生	同	同	同	同	同	同	同

同	同	同	同	二月一日	計	同	同	同
二十五日	三十日	三十一日	二日	三日	四日	五日	六日	七日
二	七	二	二	二	八	三	六	三
一	三	九	四	一	二	七	三	七
一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	二	八	二	一	一	四	六	四
一	二	一	二	二	三	二	一	二
一八	二	一	二	二	三	二	一	二
茨城縣大井澤小學校教員				西多摩郡教員				

同	同	同	同	同	同	同	同	同
二十三日	二十二日	二十一日	二十日	十九日	十八日	十七日	十六日	十五日
108	174	166	167	126	126	87	96	27
98	10	9	13	2	6	2	8	199
10	13	3	19	1	1	1	9	1
17	2	2	5	2	17	10	2	2
133	196	189	204	132	203	108	124	38
岐阜縣土岐郡青年團、同上	同上	茨城縣青年團員、全國青年指導者	奈良、靜岡青年團員、同上	全國青年團員指導者講習會員	東京府下南葛奧戸青年團員 靜岡縣、兵庫縣青年團員	同上	靜岡縣志太郡青年團員	福島縣信夫郡在郷軍人 兵庫縣城崎青年團

同	同	同	同	同	同	同	同	同
十四日	十三日	十二日	十一日	十日	九日	八日	七日	六日
5	15	16	32	2	1	1	5	39
3	5	6	5	5	3	17	1	2
5	1	1	1	1	1	1	1	1
3	5	7	6	6	2	8	9	7
16	25	29	33	13	15	25	15	48
埼玉縣福田村青年團	八王子八幡町青年團	同上	埼玉縣比企郡青年團					兵庫縣聯合青年團 栃木縣那須郡青年團

同	同	同	同	同	同	同	同	同
十二日	十一日	十日	九日	八日	七日	六日	五日	四日
二六	二九	一六七	一六	一〇一	一四	七	七	一一
二六	一五	一五	一六	一	八四	一一	一一	五九
九	八	一一	三	二	二	一	二	四
九	三	三〇	三〇	二九	三四	三五	二九	一七
一三	三三	三二	二六	一四	一四	一八	一三	一〇一
同	同	同上	同上	新潟縣青年講習會員	群馬縣館林高等女學校生徒	同	群馬縣同上	南多摩郡青年講習會
上	上	京都市立第一高等女學校生	門司鐵道局教習所生			上	上	

同	同	三月一日	計	同	同	同	同	同
三日	二日	一月一日		二十八日	二十七日	二十六日	二十五日	二十四日
二九	一四	一六	一八七	六六	一四	一五	一五〇	一一
六三	三	三〇	一〇一一	三	一六	一三	二〇	一〇〇
三	六	五	一〇三	六	九	七	七	三
六	一〇	一〇	三八	一〇	一四	一三	一〇	三
一〇〇	一五	一八	三一九	一四	二七	三〇	一八	三六
同	同	群馬縣青年講習會員		千葉縣香取郡青年團員 茨城縣北相馬郡青年團員	千葉縣市原郡處女會員、愛知縣在鄉軍人、 長野縣在鄉軍人、指導者	京都市小學校生徒、群馬縣小學生、指導者	茨城縣北相馬郡青年團員(講習員)指導者	千葉縣香取郡青年團員 全國青年指導者 岐阜縣在鄉軍人
上	上							

同	同	同	同	同	同	同	同	同
二十一日	二十日	十九日	十八日	十七日	十六日	十五日	十四日	十三日
八六	一四五	三六	一六	一六	一	一	四八	一三
二	二	三〇	七〇	五七	五	一八	六七	一五
二	九	五	三	三	六	九	七	四
八	七	六	二	一〇	三	九	八	二
二七	一八二	七	一〇〇	六	三	二〇六	一三〇	三九六
茨城縣稻敷郡青年團	千葉、茨城縣青年、德島高工學校	山梨、靜岡縣青年團	千葉縣大多喜小學校生、靜岡縣青年團 群馬縣六合補習學校生	千葉縣市原郡青年團、愛知縣實業學校	帝國農會出席者茨城縣農會員	埼玉縣比企郡小學校	宮城縣小學校生	靜岡縣田方郡宇佐美小學校生

同	同	同	同	同	同	同	同	同
三十日	二十九日	二十八日	二十七日	二十六日	二十五日	二十四日	二十三日	二十二日
一三	九二	四九	七四	五七	二二	一四	一〇五	九五
九九	一三三	一六四	一九〇	一八二	九八	二八	一五	二二
二	一	三	一	七	四	七	六	一三
一三	三	三	三	二五	一四	六	八	一〇
三三	三三九	二六六	二九六	二七一	二七	五	一三四	一五
敦化團體講習員	栃木縣小學校生、敦化團體講習員	兵庫縣印南郡青年團	群馬縣青年、千葉縣小學校生	埼玉、千葉縣青年敦化團體講習會	千葉縣小學校	北海道日高國民學校、長野縣青年	栃木、福島、長野各縣青年團	西多摩郡、長崎市聯合青年團

十		月				十			
晝間		計		晝夜間		夜間		晝間	
料金	回数	料金	回数	料金	回数	料金	回数	料金	回数
160	2								
360	6	100	4			100	3	60	1
35	1	35	3					35	5
7	1								
22	3	1	4					1	4
25	5	5	1					5	1
15	3								
10	1	10	1						
600	12	20	1			10	1	100	9
計		計		計		計		計	

自大正十四年十月  
至大正十五年三月  
五ヶ月間會館使用成績表

日	計	同
二十一日	10,335	一五
二十二日	11,119	一六
二十三日	516	一八
二十四日	1,021	一九
二十五日	11,143	二〇
二十六日	1,021	二一
二十七日	1,021	二二
二十八日	1,021	二三
二十九日	1,021	二四
三十日	1,021	二五
三十一日	1,021	二六
計	10,335	二七
累計	10,335	二八
一日平均	百三十三名餘	二九





合 計	月										
	計		晝夜間		夜間		晝間		計		
	料金	回数	料金	回数	料金	回数	料金	回数	料金	回数	
一、六三〇	一八	四〇五	四	一四五	一	一〇〇	一	一六〇	二	三〇五	三
一、八七六一、三〇〇、七四	三二	三八四	六			一四四	二	二四〇	四	一、一〇〇	二
六七、六	八	三七四	一四	二四	一	一一〇	六	一五〇	七	一一五	三
二二六、二	三	一〇	一			一〇	一			七	一
九四、七	一四	九一、四	一五	二七	三	一一	三	四三、四	九	三〇、八	四
一四〇、六	二二	四八、二	八	一〇、五	一	一五	二	二一、七	五	五、六	一
一五八、四	三三	五	一					五	一	七	一
六五、四〇五、八九、二四	三三	九	三					九	三	二九、四	五
	一八五									七	一
										六二六、八	二

備考一、室別其他トアルハ借室ノ目的ニアラサル娛樂室、寢室等ヲ都合上便宜使用シタルモノナリ  
 二、使用料ハ實收額ヲ記載シタリ、從テ使用回数アリテ料金ナキモノ又ハ使用規程ノ定額ニ一致セサルモノ等アルモ右ハ免除若ハ減額シタルモノアルカ爲ナリ

### 大正十四年度に於ての主なる會館使用者

#### 大正十四年十月中

- 東京府青年團幹部講習會 自十七日至二十日
- 東京朝日新聞社講演會及映寫會 二十九、三十日
- 東京市聯合青年團講演會及映寫會 三十一日
- 明治神宮競技大會劍道競技 三十一日

#### 同 十一月中

- 内務省衛生局映寫大會 一日
- 東京朝日新聞社講演會及映寫會 一、二日
- 明治神宮競技大會劍道競技 自一日至三日
- ミュラシツボフ舞踊大會 七、八日
- 自動車運轉七組合發會式 十五日
- 帝大音楽部秋季演奏會 廿六日
- 帝大農學會評議員會 廿六日
- 救世軍大會 自廿七日至三十日
- 佛敎婦人青年會音樂會 廿九日

#### 同 十二月中

- 八王子青年團幹部講習會 自一日至四日
- 豊多摩郡青年團雄辯大會 五日
- 大日本農會大會 六日
- 新潟縣人社交會 六日
- 梶原貫五氏作品展覽會 自九日至十一日
- 陸士會慰安會 十三日
- 東京朝日新聞社ピアノ演奏會 十五日
- 東京朝日新聞社記者採用試験 十五日
- ウイユタースポーツ映畫大會 十七日
- モット博士講演會 二十日
- 東京朝日新聞社同情週間映寫會 二十日
- 帝國在郷軍人會招待會 二十一日

#### 大正十五年一月中

- 救世軍兵士會 四日
- ケイニヒ氏歡迎音樂會 十六日

東北社新年宴會	十六日	西多摩郡青年團幹部講習會	自一日至五日
革新同志大會	十九、二十日	群馬縣中堅青年講習會	自一日至七日
東京市聯合青年團幹部交歡會	二十一日	豐多摩郡教育會總會	六日
美鷹會春季總會	二十四日	思想統一協會講演會	六日
日本交響樂協會演奏會	廿四日、三十一日	代議士斯波貞吉氏懇談會	七日
南葛青年團幹部講習會	自二十五日至二十九日	新潟縣青年團講習會	自八日至十三日
同 二月中		栃木縣青年團講習會	自十日至十三日
東京市在郷軍人分會聯合會懇親會	五日	山ノ手旅館組合勤績者表彰式	十二日
專修商業學校送別會	十日	日本交響樂會	十四日、二十八日
府下魚商組合總會	十日	音羽時雨氏民謡舞踊大會	十四日
日本女子商業學校卒業生送別會	十一日	橘流筑前琵琶大會	二十日
女子英學塾映寫大會	十三日	茨城縣稻敷郡青年講習會	自廿日至廿二日
東京市聯合婦人會講演會	十四日	義勇消防組頭大會議	二十一日
日本交響樂協會演奏會	十四日、二十八日	アサヒ映畫研究所封切映畫會	二十二日
大日本卓球協會對抗試合	十七、十八日	東京市聯合青年團雄辯會	廿七日
茨城縣北相馬郡青年團講習會	自二十五日至二十八日	教化事業講習會	自二十六日至三十日
同 三月中		荏原郡青年團講習會	自廿七日至二十九日
		陸軍省醫部講演會	三十日

庶務狀況

# 御下賜金

大正十四年十月廿日附にて皇室より本館事業獎勵の思召を以て御内努金十萬圓御下賜の光榮に浴した。聖旨の深遠なるに唯々感激、今後更に一層我國青年團の發達の爲めにその責の重大なるを切に感ずる次第である。

財團 日本青年館  
法人

今般其館ニ於ケル事業ヲ被聞食御獎勵ノ思召ヲ以テ金拾萬圓下賜候事

大正十四年十月二十日

宮内省

# 開館式

大正十四年十月廿六日から廿八日に至る三日間に亘り開館式を舉げた。

## 日本青年館開館式日程

第一日 (十月二十六日)

明治神宮參拜(青年代表者)	午前六時……午前七時半
清祓式(青年代表者)	午前八時半……午前九時
開館式	午前十時……正 午
祝賀午餐會	正 午……午後一時
郷土舞踊及民謡	午後一時……午後五時

懇談會  
午後七時……午後十時

青少年資料展覽會

午前九時……午後五時

第二日 (十月二十七日)

午前十一時

攝政殿下奉迎式(青年代表者)

午後一時……午後五時

記念講演及青年辯論會

午後六時……午後十時

郷土舞踊及民謡(招待)

午前九時……午後五時

青少年資料展覽會

第三日 (十月二十八日)

午前八時……正午

宮城拜觀及市内見學

午後六時……午後十時

郷土舞踊及民謡(公開)

午前九時……午後五時

青少年資料展覽會

開館式第一日 (十月廿六日)

午前十時より加藤首相をはじめ在朝在野の各名士並に各國の大使公使全國青年代表者の臨席のもとに開館式は莊嚴に舉げられた。

劈頭伊達理事の開會の辭、君が代、二條理事の令旨奉讀、田澤理事の經過報告、小林技師工事報告をなし、丸山理事の挨拶を終り、加藤内閣總理大臣、若槻内務大臣、岡田文部大臣、平塚東京府知事、

中村東京市長、大日本聯合青年團長の祝辭あり後青年代表者總代遠藤福三郎君の答辭あつて、式を閉ぢた。

開館式第二日 (十月廿七日)

此の日午前十一時より開館式に參列の全國青年代表者四百名と東京府市聯合青年團分團長四百餘名とは赤阪の東宮假御所に於て攝政殿下に拜謁を賜はることとなり、鎌田顧問、丸山、田澤、二條、吉田の各理事に引率されて御所西門から參入し御車寄前の大廣庭に整列拜謁を賜り、後丸山理事の發聲のもとに「攝政殿下萬歲」を三唱した。

午後には若槻内相、岡田文相、床次、後藤の兩本館顧問の演説あり、終つて青年辯論會に移る。石川縣の山崎顯昌君をはじめ各地の青年の熱烈な演説があり、後本館理事田澤氏の講演があつた。

開館式第三日 (十月廿八日)

此の日は主として新宿御苑の拜觀、帝展、放送局の見學をした。尙開館式の詳細な記事は大正十四年十一月號「青年」參照

一 般

- 一、七月十五日 理事長一木喜徳郎氏辭任セラル
- 一、九月十日 前理事長一木喜徳郎氏ヲ顧問ニ推薦ス
- 一、九月十七日 新館略竣成ニ付假事務所ヨリ移轉ス
- 一、十五年二月二十日 理事田澤義鋪氏、伊達源一郎氏、後藤文夫氏、任期滿了ノ處再任同日登記ス
- 一、十五年三月二十三日 理事赤司鷹一郎氏、池田宏氏任期滿了ニ付參與ヲ囑託ス

第五回評議員會

大正十五年三月廿六日午前十時ヨリ本館三階大食堂ニ於テ第五回評議員會ヲ開ク

出席者 理事丸山鶴吉、田澤義鋪、伊達源一郎

評議員池田繁治外二十六名及代理出席者四名

左記議案ヲ附議決定ス

- 一、大正十三年度決算
- 一、第三部特別會計損失金處分ノ件
- 一、大正十五年度日本青年館豫算ノ件

理事會

一、六月十五日 帝國鐵道協會ニ於テ

報告事項

- 1、大日本聯合青年團第二回代議員會及發團式並ニ大會ニ關スル件
- 2、本館建築工事經過ニ關スル件

附議事項

- 1、開館式舉行ニ關スル件
- 2、食堂賣店及理髮店請負ニ關スル件
- 3、宿泊者範圍及宿泊料ニ關スル件

- 4、寢具裝飾品其他購入ニ關スル件
- 5、事務室貸與ニ關スル件

一、七月十日 帝國鐵道協會ニ於テ

附議事項

- 1、食堂契約案ニ關スル件
- 2、新館外圍工事ニ關スル件
- 3、新館排水工事ニ關スル件
- 4、理事長辭任ニ關スル件

一、八月十八日 本館假事務所ニ於テ

附議事項

- 1、一木前理事長ヲ顧問ニ推薦ノ件
- 2、新館家具及電燈設備ニ關スル件
- 3、雜誌「青年」經營ニ關スル件

ノ三件ナリシガ參會役員少ナキ爲メ緊急事項タル第二項ノミヲ議シ他ノ二件ハ次回ニ廻付ス  
 一、九月二日 本館四階ニ於テ

報告事項

- 1、新館家具及電燈設備ニ關スル件
- 2、開館式ニ關スル件

附議事項

- 1、一木前理事長顧問推薦ノ件
  - 2、雜誌「青年」經營ニ關スル件
- 一、十月二十三日 本館會議室ニ於テ

附議事項

- 1、御下賜金ニ關スル件
- 2、奉迎文ニ關スル件
- 3、舉式次第ニ關スル件

一、十二月三日 本館會議室ニ於テ

報告事項

1、會館利用狀況ニ關スル件

2、開館式ニ關スル件

附議事項

1、基金募集ニ關スル件

1、人事ニ關スル件

一、十五年三月九日 本館會議室ニ於テ

附議事項

1、大正十三年度決算報告

2、第三部特別會計損失金處分ノ件

3、大正十五年度豫算

會計狀況



會 信 報 誌

會計事務ハ其性質上特記スヘキ事項極メテ少ナキモ左ニ二三ノ事項ヲ掲ケ參考トナス

一、末收入釀出金ノ整理

前年度末ニ於テ參拾九萬五千參百貳拾九圓九錢ノ末收入釀出金アルハ一般財界不振ノ影響ヲ受ケルコト少ナカラスト雖モ末納ノ府縣ニ對シテハ極力釀出方ヲ催シ千葉縣外十二縣ニ於テ五萬六百六拾五圓四拾錢ノ釀出ヲ見ルニ至リタルモ尙參拾四萬四千六百六拾參圓六拾九錢ノ末收入金アルヲ以テ之カ納付方ニ關シ一層最善ノ努力ヲ要スヘク督勵ヲ加ヒツ、アリ

一、會館建築費ノ支拂

當會館ハ大正十一年十月工ヲ起シ大正十四年十月ヲ以テ大體ノ落成ヲ見ルニ至リタルモノニシテ其建築費ハ豫テ決議ニ係ル百六拾貳萬圓ノ内左ノ通り仕拂ヲ了シタリ

支 出 年 度	支 出 額	繰 越 額
大 正 十 一 年 度	四八、〇九九五八	一、五七一、九〇〇四二

	大正十四年度	大正十三年度	大正十二年度
計	一、五六九、六九八三一	三、八四、七九一一〇	二、三五、七〇四八一
	九〇一、一〇二八二	九五一、四〇四五	一、三三六、一九五六
	五〇、三〇一六九		

大正十五年度日本青年館經常部歲入歲出豫算書

歲入ノ部

- 第一款 利息 子 貳萬五千八拾圓
- 第一項 利息 子 貳萬五千八拾圓
- 第二款 歲計剩餘金繰入 貳萬四千貳百圓
- 第一項 歲計剩餘金繰入 貳萬四千貳百圓

第三款 寄附金

第一項 寄附金

第四款 借入金

第一項 借入金

第五款 雜收入

第一項 雜收入

歲入計

六萬九千參百八拾圓

歲出ノ部

第一款 會議費

第一項 會議費

第二款 事務費

第一項 俸給及賞與

第二項 旅費

第三項	需用費	貳千七百圓
第四項	給及雜費	八千九百八圓
第三款	事業費	貳萬參千七拾七圓
第一項	教育費	壹萬參千九百圓
第二項	調查費	五千四拾圓
第三項	社會事業費	四千壹百參拾七圓
第四款	諸支出金	九千四百貳拾五圓
第一項	聯合青年團支出金	參千圓
第二項	出版部支出金	五千圓
第三項	會館部支出金	壹千貳百圓
第四項	基金借入金利子	貳百貳拾五圓
第五款	豫備費	七百七拾圓
第一項	豫備費	七百七拾圓

七二

歲出計

六萬九千參百八拾圓

大正十五年度日本青年館建築資金歲入歲出豫算書

歲入ノ部

第一款	建築資金	六、五〇〇圓
第一項	大正十四年度繰越額	六、五〇〇圓
歲入計		六、五〇〇圓

大正十五年度日本青年館建築資金歲入歲出豫算書

第一款	新營費	六、五〇〇圓
第一項	工事費	六、五〇〇圓
歲出計		六、五〇〇圓

說明

一、本年度歲入ハ大正十一年度議決ニ係ル建築資金繰入金百六拾貳萬圓ノ内大正十一、二、三年

七三

度の支出額及大正十四年度支出見込額合計百五拾六萬七千圓ヲ控除シ尙第三部特別會計ノ損  
 失補填見込額四萬六千五百圓ヲ控除シタル殘額トス  
 二、本年度歳出ヲ要スルハ敷地整理費其ノ他殘工事費ニ充ツルモノトス  
 三、歳入豫算内譯書ハ之ヲ省略ス

大正十五年度日本青年館事業基金歳入歳出豫算書

歳入ノ部

第一款 事業基金繰入金	一、四〇二、六〇八圓四八
第一項 事業基金繰入金	十二年度未繰入金 一四四、四八三、九九
	十三年未繰入金 七七、九九五、四〇
	十四年度繰入見込額 四六、二〇一、二六
	本年度繰入見込額 三四九、一二七、八三
第二項 恩賜金繰入金	十四年度繰入見込額 一〇〇、〇〇〇、〇〇
第三項 募集基金繰入金	本年度繰入見込額 六八四、八〇〇、〇〇
歳出ノ部	

第一款 事業基金

第一項 事業基金

一、四〇二、六〇八、四八  
 一、四〇二、六〇八、四八

備考

一、歳入ノ部第一項事業基金繰入金ハ釀出決議額二、二三七、八〇八圓四八ノ内建築資金一、六二二  
 〇〇〇〇圓〇〇ヲ控除セル金額六一七、八〇八圓四八トス  
 二、同第三項募集基金繰入金ハ本年度基金募集額七〇〇、〇〇〇圓〇〇ノ豫定ナルモ一五、二〇〇  
 圓〇〇ハ右募集ニ要スル經費ニ充當スル見込ニ付之ヲ控除シ計上セリ

大正十五年度日本青年館出版部特別會計收支豫算書

收入ノ部

第一款 雜誌及圖書收入	四萬參百八拾圓
第一項 雜誌收入	壹萬四千壹百圓
第二項 刊行圖書收入	壹萬貳千貳百八拾圓

第三項	圖書其他取次收入	壹萬四千圓
第二款	一般會計補助金	五萬圓
第一項	一般會計補助金	五萬圓
第三款	聯合青年團分擔金	壹千圓
第一項	聯合青年團分擔金	壹千圓
第四款	雜收	參百圓
第一項	雜收	參百圓
收入計		四萬六千六百八拾圓
支出ノ部		
第一款	雜誌及圖書刊行費	參萬八千八拾圓
第一項	雜誌刊行費	壹萬七千九百九拾四圓
第二項	圖書刊行費	九千七百圓
第三款	圖書其他取次諸費	壹萬參百八拾六圓

第二款	經營費	八千六百圓
第一項	人件費	四千圓
第二項	物件費	四千五百圓
支出計		四萬六千六百八拾圓

大正十五年日本青年館維持管理收支豫算書

第一款	會館收入	四萬六千參百八拾壹圓
第一項	宿泊料	貳萬參千七百貳拾五圓
第二項	使用料	壹萬九千七百八拾八圓
第三項	雜收	貳千八百六拾八圓
收入計		四萬六千參百八拾壹圓
支出		四萬六千參百八拾壹圓

第一款	會館費	四萬六千參百八拾壹圓
第一項	俸給	七千五百貳拾五圓
第二項	雜給	壹萬七千六百八拾壹圓
第三項	需用費	壹萬九千參百六拾八圓
第四項	修繕費	壹千貳百圓
第五項	豫備費	六百七圓
支出計	入	四萬六千參百八拾壹圓

大正十五年四月日本青年協會會計帳目表

一、支出  
 二、收入  
 三、結算  
 四、備註

### 大日本聯合青年團狀況

## 大日本聯合青年團狀

### 事務所移轉

大正十三年十月創立以來日本青年館假事務所にて事務を取つてゐたが十四年九月十七日日本青年館新館落成と同時に大日本聯合青年團事務所も移轉し別記の如き豫算により各種の事業を遂行した。

### 發團式及第一回大會

大正十四年四月十五日名古屋市に於て發團式を挙げ、次いで同十六、十七の兩日間に亘り同團の第一回大會を舉行したが、其實務は主として日本青年館に於て執つた。

第一日の發團式當日は内務省より湯淺次官小濱社會局福利課長、文部省より杉浦文部次官、關屋普通學務局長、小尾社會教育課長それに本館理事後藤文夫氏、田澤義鋪氏、伊達源一郎氏其外常任理事丸山鶴吉氏が一木理事長の代理として司會し、式は盛大の裡に閉ぢられた。大會は各加盟團より正團員四名青年團關係者一名地方委員一名(六大都市を含む府縣は倍數)出席し本會議に於て大體を討議し

- 一、青年團及聯合青年團に關する施設
- 二、青年團員の修養と其教範
- 三、青年團の講習會と教育施設
- 四、青年の軍事訓練
- 五、本團の組織經營の五部内に於れて審議するところがあつた。

大正十四年度大日本聯合青年團收支豫算收入ノ部

一金五千四百四拾圓也

內 譯

一、三千四百四十圓

〔二千四百八十圓(一團八十圓卅一團分) 九百六十圓(一團百六十六圓六團六大都市ヲ含ム府縣)〕

一、二千圓

財團法人日本青年館補給金

支出ノ部

一金五千四百四拾圓也

內 譯

一、四千九百圓

會議費(理事會、地方委員會、代議員會)

一、千七百圓

事務所費〔九百五十圓(人件費) 七百五十圓(需用費、備品費、消耗品費、印刷費、通信運搬費、雜費)〕

一、三千二百五十圓

事業費〔千二百五十圓(大會費) 二千圓(團報費(年四回發行))〕

### 財團法人 日本青年館寄附行爲

#### 第一章 名 稱

第一條 本財團ハ財團法人日本青年館ト稱ス

#### 第二章 目 的

第二條 本財團ハ大正九年十一月二十二日 皇太子殿下ヨリ令旨ヲ賜ハリタルコトヲ記念セムカ爲

ニ日本青年館ヲ建設シ之カ維持及管理ヲナシ併セテ全國青年團ノ發達ヲ助長スルヲ以テ目的トス

日本青年館ハ全國青年團員宿舍、講演會場其他青年修養ニ關スル施設ニ充ツルモノトス

#### 第三章 事 務 所

第三條 本財團ハ事務所ヲ東京市四谷區霞ヶ丘町十一番地ニ置ク

#### 第四章 資 産 及 經 費

第四條 本財團ノ資産ハ左ニ掲クルモノトス



- 一、全國青年團員ノ據出金
- 二、本財團ノ目的ヲ贊助スル者ヨリ受入レタル寄附金
- 三、其他ノ收入

本財團設立ノ日ニ於ケル資産ハ金百四拾五萬五千五拾壹圓トス

第五條 前條資産ノ管理方法ハ評議員會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第六條 本財團ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第七條 本財團ノ經費ハ資産ヲ以テ之ニ充ツ

第八條 本財團ノ豫算ハ毎會計年度開始前評議員會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム但シ臨時急施ヲ要シ評議員會招集ノ暇ナキトキハ理事ノ意見ヲ聽キ理事長之ヲ定ムルコトヲ得

決算ハ其終了後評議員ノ認定ヲ經ルモノトス

第五章 役員及職員

第九條 本財團ニ左ノ役員ヲ置ク

- 一、理事 若干名

二、監事 若干名

三、評議員 若干名

四、參與 若干名

五、顧問 若干名

第十條 理事及監事ハ評議員中ヨリ理事長之ヲ選任ス

第十一條 理事中ヨリ理事長一名ヲ互選ス理事長ハ本財團ヲ代表シ事務ヲ統轄ス

理事長故障アルトキハ理事長ノ指名シタル理事其ノ職務ヲ代理ス

第十二條 評議員ハ理事ノ意見ヲ聽キ理事之ヲ囑託ス

第十三條 役員ノ任期ハ四年トス但シ再任ヲ妨ケス

第十四條 補缺ニ依リ就任シタル役員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十五條 役員ノ任期滿了ノ場合ニ於テハ其ノ後任者ノ就任スル迄仍前任者ニ於テ其ノ職務ヲ行フ

第十六條 參與ハ理事ノ意見ヲ聽キ理事長之ヲ囑託ス參與ハ本財團ノ事業執行ニ關シ理事長ノ諮問ニ

應シ又ハ自ラ意見ヲ述フルコトヲ得

第十七條 顧問ハ理事ノ意見ヲ聽キ理事長之ヲ委囑ス本財團ノ事業ノ執行ニ關シ理事長ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得

第十八條 本財團ハ事務員若干名ヲ置キ理事長之ヲ任免ス

第六章 評議員會

第十九條 評議員會ハ毎年一回之ヲ開ク但シ理事長ニ於テ必要ト認メタルトキハ臨時之ヲ招集スルコトヲ得

第二十條 評議員會ノ議長ハ理事長之ニ當ル理事長故障アルトキハ理事長ノ指名シタル理事之ニ當ル

第二十一條 評議員會ハ評議員五分ノ一以上出席スルニ非ラサレハ開會スルコトヲ得ス但シ同一議事ニ關シ再度招集シタルトキハ此ノ限ニアラス

第二十二條 評議員會ノ議事ハ出席評議員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第二十三條 評議員會ニ於テ議決スヘキ事項左ノ如シ

- 一、資産ノ管理ニ關スル事項

二、豫算ニ關スル事項

三、其他理事長ニ於テ必要ト認メタル事項

第七章 補則

第二十四條 本寄附行爲ノ施行ニ關シ必要ナル細則ハ評議員會ノ議決ヲ經テ別ニ之ヲ定ム

第二十五條 本寄附行爲ノ條項ハ評議員三分ノ二以上ノ同意ヲ得且主務官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ變更スルコトヲ得

附則

第卅六條 本財團設立當初ノ役員ハ左ノ如シ

理事	長	公	近	衛	文	磨
理事	事	赤	司	鷹	一	郎
理事	事	田	子	一	民	
理事	事	田	澤	義	鋪	

役員

(大正十五年十月一日現在)

理事長	井上準之助	理事	二條厚基	伊達源一郎	志賀直方	會我祐邦	一木喜徳郎	中橋徳五郎	鎌田榮吉	近衛文麿	池田宏	與田一民
			吉田茂	丸山鶴吉	守屋榮夫		濱口雄幸	岡田良平	田中義一	後藤新平	小笠原長幹	塚本清治
			田澤義鋪	後藤文夫	關屋龍吉		床次竹二郎	若槻禮次郎	高田早苗	水野鍊太郎	川崎卓吉	長岡隆一郎

職員

(大正十五年十月一日現在)

主事	後藤隆之助	松原一彦	大久保利政	潮惠之輔	乘杉嘉壽	山田準次郎
嘱託	尾形正作	熊谷辰治郎	三橋正	山崎達之輔	松浦鎮次郎	小橋一太
書記	音成房男	神田海之助	石野幸三	赤司鷹一郎	佐野利器	三矢宮松
	小澤方貞	小笠原幹男	乙部泉三郎	南弘		
	池田徹	藤原甚九郎				

311  
316

事務員

樽林鐵之助  
山本常雄  
岡江豊

雨夜甚將  
野田榮司  
高内十一郎

岩井アサ  
木戸勝次  
小長光信夫

近藤好一  
伊藤長助  
鬼澤幸一

高内ゆゑ  
館時子  
右田政夫

青島嘉夫  
館時子  
右田政夫

今井兼寛  
土生武猷  
大八

山本瀧之助  
木下檢二  
渡邊庸一郎

小林政一  
木村榮二郎  
遠山靜雄

高橋竹次郎  
森秀  
米澤英之

玉井廣平  
安原清太郎  
三

囑託(無給)  
館外囑託

終

